

聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2021年
6月1日発行
第231号

勇気を持って、諦めずに、自分の歩みをすすめてよう！

あまりにも早い梅雨入り、紫陽花はまだ咲かず…人間だけでなく自然もとまどっているかもしれません。平素は、聖母の小さな学校の教育にご理解、ご協力をいただき、深く感謝いたしております。まだコロナ感染対策のための緊急事態宣言が出されています。本校も5月に予定していた聖母ファミリーの集い「五月祭」は中止。「創立30周年記念企画 鯖街道を歩く 第3回目」を6月に延期いたしました。そのような中でも、本校に通う生徒たちはそれぞれ自身の成長のために新たに出てくる課題に取り組んでいます。聖母に通学できるようになり、一度は基本的生活のパターンが築けた生徒も、再度、昼夜逆の生活に陥ったり、また、同年代の周りの人と比べ、自分は生きている価値がないと思ってしまう、真っ暗な苦しい状態になってしまった生徒、自分の好きな事はするのだけれど、少し頑張らなければできない事はしない生徒など、それらの事実を生徒と共有し、自身の人格形成上の「困りごと」として、まず認識できるよう導きたいと思えます。「困りごと」は、「悪いこと」とは違います。形は違えども、人間が誰でも持たねばならない事です。そのことを放っておくのではなく（放っておくと人間はおかしくなり、非人間的になります）、共有し、教育にあたりたいと思えます。一人だけの閉ざされた中ではなく、人と共有するという開かれた中で「学び直したり、誤りを正したりして、あらためて人間になる、そこから直されて、本当の人間になる。そのプロセス全体が人間であるということだ」と上田閑照（京都大学名誉教授・哲学）は言います。不登校の経験も実はこのように人間になる時の大事な出来事です。深く、難しい学びです。生徒たちはそのことを中学生なりに感じ捉えています。

「学校へ行けなくなった時、『なんで学校に来れんの（来れないの）？』とか、『何か原因があるんか（あるのか）？』と、不登校の理由を聞かれた時が一番困った。自分でも分からなくて苦しんでいるのに、人に聞かれても答えようがない。きっと先生方は早く原因を解決して教室へ戻したいとばかり思われているのだろうけど、『これが原因で行けない』という問題ではない。そんなものではない、もっとズシンと心の底まで落ちているものだから、『これを解決したら行けます』というような簡単な問題じゃなかった。人間の本质にかかわることだ」と生徒たちは不登校だった時を振り返っています。

5月27日には、晴れ間をぬって、釣り大会をしました。釣れませんでした。糸の結び方、リールの使い方、投げ方、色々学んで楽しい1日でした。緊急事態宣言下、許される範囲で、コロナ対策をとり、体験学習も取り入れていきたいと思えます。



5/26 釣り大会

本校の輪読会第2弾として、アンディシュ・ハンセン著「スマホ脳」に取り組んでいます。ゲーム・アニメ・スマホ等の使い方を考えるヒントになるでしょう。今月もよろしくお願いたします。

<今月の主な行事>

9日（水）体育（渡邊先生）	18日（金）「鯖街道を歩く」事前学習
11日（金）・25日（金）ギター教室	22日（火）釣り大会
12日（土）グラウンド整備（親子行事）	25日（金）月例保護者会 18:30～
17日（木）華道教室	27日（日）「鯖街道を歩く」